

凡 例

一、本巻は沖縄県史料前近代7(首里王府仕置3)である。

一、本巻は喜舎場一隆氏、仲原善秀氏、崎浜秀明氏、石垣米子氏、成城大学民俗学研究所、琉球大学附属図書館、沖縄県立芸大附属図書・芸術資料館、青森県立図書館、京都大学文学部博物館、崎浜秀明氏等が所蔵する史料から、近世琉球における首里王府の諸施策を示す基本法令類を収録した。各史料の所蔵者は、解題末尾に付してある。

一、筆耕は、各機関・各氏所蔵の原史料もしくは写真複製本を用いておこなった。

一、収録にさいしてはできるだけ原史料の体裁をとどめるよう努力したが、編集の都合上以下の変更を加えた。

1 旧漢字は原則として新漢字に改めた。

2 「里」「筑」の略字は、それぞれ「里之子」「筑登之」と表記した。

3 変体仮名「ま」「ね」「あ」「て」「さ」「あ」はそのまま生かし、他は原則として平仮名に直した。

例 連↓れ、留↓る、志↓し、楚↓そ、など。

4 朱書の箇所は「」でくくり、区別した。

5 明かな誤字については訂正したり、(ママ)と傍記した。また、脱字もしくは脱字と思われるところは他写本等により、「」で補充した。

6 判読できなかった文字は□や□などで示し、虫損などの理由で判読不可能なものは、□(一字)もしくは□(字数不明)と表記した。他写本によって、判定もしくは推定可能なものは、(欠)の字に換えて()もしくは(カ)で示した。

7 「ノ」「して」は「して」、「ル」「起」は「起」に統一した。

8 標題は、表紙のある史料はその旨図示したが、他史料との区別等の理由で、編集者が別に名を付したこともある。

9 その他内容を損なわない範囲で、紙面の体裁等編集の都合上変更を加えてある。

一、収録に御協力をいただいた各位に謝意を申しあげたい。

解題

本巻は、一九八九年二月に『沖縄県史料』前近代6として発刊した「首里王府仕置2」の続巻にあたる。本巻で、首里王府仕置の基本的な史料は、一応刊行したことになる。一九八一年三月に刊行した「首里王府仕置1」では、「羽地仕置」「(田舎)法式」「御教条」「平時家内物語」「与世山親方八重山島規模帳」等十二編を収め、「首里王府仕置2」では、「品定」「位階定」「服制」「御心喪定制」「衣服定」「婚礼祭礼之時定」「農務帳」「田地奉行規模帳」「山奉行所規模帳」「久米具志川間切規模帳」「與世山親方八重山島規模帳」「與世山親方八重山島農務帳」等、二十九編の基本令達類と関連史料、農政・村政関係の令達類を収録した。

今回は、「前近代6」で予告してあった「公事帳」「例帳」四十二編を収録することができた。史料の配列は、まず、王府諸座関係の公事帳を前におき、その後に諸間切、諸島の公事帳を、八重山、宮古、久米島等の順でならべ、例帳をその後に、公事帳と同じ順序でならべて、全体をまとめた。

さて、「公事帳」とは、「くじちよう」と読み、他に「かうじちよう」「こうじちよう」と読むこともある。近世期に、首里王府が、各行政機関の職掌に応じて、公務案件の遂行、執務上の規定として、布達した文書である。内容は、各役所の役人の心がまえが、より具体的に記述されている。

一方、「例帳」は、首里王府をはじめ、各間切蔵元等に完備された、例規集のことである。「公事帳」が、法令規則をまとめたものであるのに対して、「例帳」は、「公事帳」を受けて、より具体的に、数量的な例規を集録したものである。両者は、一対をなすもので、首里王府時代の各種業務の実際、王府の施策の具体的状況を知る上で、重要な史料であるとともに、その時期の社会的事情を考える上でも大切な史料といえよう。

紙数の都合で、収録することのできなかつた史料もあるが、それらについては、今後、検討していきたい。この一冊が、公事帳・例帳の研究をうながし、多くの成果があることを期待したい。

終りに、本巻を刊行するにあたり、貴重な史料の掲載を快諾下さった、喜舎場家所蔵八重山関係公事帳・例帳を管理しておられる、琉球大学法文学部教授の喜舎場一隆氏、久米島仲里間切関係の公事帳を保管してこられた仲原善秀氏、八重山石垣家所蔵の公事帳を管理しておられる石垣米子氏、比嘉春潮氏旧蔵の稿本所蔵の崎浜秀明氏、王府や宮古島関係の公事帳・例帳を所蔵する成城大学民俗学研究所、久米島具志川間切の公事帳・例帳等を所蔵する琉球大学附属図書館、鎌倉芳太郎ノートを所蔵する沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、笹森儀助文庫を持つ青森県立図書館、ぼう大な「琉球資料」を所蔵する京都大学文学部博物館にお礼を申しあげる。四十二編の公事帳・例帳が一冊にまとまったのは、本巻がはじめてであろう。ご快諾下さった方々や関係機関のご協力の賜である。深謝す。

本巻収録の諸史料の底本と、参考史料を紹介しておく。

1 泊横目公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。同研究所の『民俗学研究所紀要』第三集(昭53・12)に、平山敏治郎氏が「那覇横目条目 那覇横目規模帳 泊横目公事帳(資料)」として紹介している。

2 山奉行所公事帳 本史料は『林政八書 農務帳』(稿本。比嘉春潮旧蔵・崎浜秀明氏蔵)を底本にし、崎浜秀明氏が他の史料等と校合し、『蔡温全集』(昭56・2、本邦書籍)として発行した「林政八書」の項や、『琉球藩林制書』

(明39・3。農商務省山林局)、『林政八書』(昭12・6。立津春方。東京図書株式会社。昭51・7。財団法人土井林学振興会復刻)、『琉球藩林制書』(昭57・2。林政資料第四〇号、琉球林業協会)を参照した。

3 與世山親方八重山島小与座公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。

4 翁長親方八重山島船手座公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。

5 翁長親方八重山上国役人公事帳 琉大附属図書館宮良文庫所蔵本を底本にし、喜舎場家所蔵本を参考補填した。

- 6 與世山親方上国公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 7 富川親方八重山島御用布座公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 8 富川親方八重山島勘定座公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 9 富川親方八重山島諸村公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 10 富川親方八重山島船手座公事帳 青森県立図書館笹森文庫所蔵本を底本にした。
- 11 富川親方八重山島蔵元公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にして、青森県立図書館笹森文庫を参考、補填した。
- 12 進貢接貢船唐船朝鮮船異国船日本他領之船漂着破船□之時在番役々公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 13 八重山島地船上着公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 14 八重山島科人公事帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 15 八重山島諸村所役公事帳 石垣家文書(二)を底本にした。
- 16 富川親方宮古島地船上着公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本「宮古島記録」を底本にした。
- 17 富川親方宮古島仕上世座公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 18 富川親方宮古島諸村公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 19 宮古島御用布座公事帳 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の『鎌倉芳太郎ノート』を底本にした。
- 20 多良間島公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。この史料は作業中に発見したものである。
- 21 宮古島科人公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 22 宮古島小与座公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 23 宮古島糸函座公事帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 24 久米具志川間切公事帳 琉球大学附属図書館所蔵本を底本にした。

- 25 久米仲里間切公事帳（雍正本）仲原善秀所蔵本（仲里村教育委員会寄託）を底本にした。
- 26 久米仲里間切公事帳（道光本） 仲原善秀所蔵本（仲里村教育委員会寄託）を底本にした。
- 27 久米仲里間切諸村公事帳 仲原善秀所蔵本（仲里村教育委員会寄託）を底本にした。
- 28 久米島科人公事帳 仲原善秀所蔵本（右同）を底本にした。
- 29 公事帳写 琉球大学附属図書館島袋源七文庫所蔵本を底本にし、京大文学部博物館所蔵「琉球資料」一一三を参考、補填した。
- 30 御菓子并万例帳 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の『鎌倉芳太郎ノート』を底本にした。
- 31 瓦奉行例帳 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の『鎌倉芳太郎ノート』を底本にした。
- 32 富川親方八重山島船手座例帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 33 富川親方八重山島所遺座例帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 34 富川親方八重山島仕上世例帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 35 八重山島所遺座加治例帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 36 八重山島壺瓦方例帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 37 例帳 喜舎場家所蔵本を底本にした。
- 38 富川親方宮古島仕上世座例帳 成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 39 宮古島所遺座例帳（書抜）成城大学民俗学研究所所蔵本を底本にした。
- 40 宮古島船手座例帳 沖縄県立芸大附属図書・芸術資料館所蔵の『鎌倉芳太郎ノート』を底本にした。
- 41 宮古島鍛冶例帳 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の『鎌倉芳太郎ノート』を底本にした。
- 42 久米具志川間切例帳 琉球大学附属図書館所蔵本を底本にした。

（當 間 一 郎）